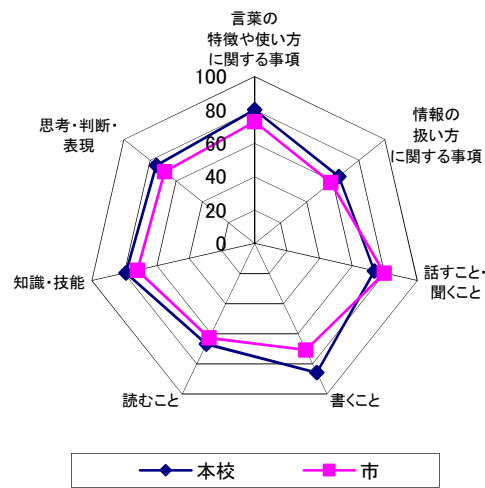


宇都宮市立中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.1	73.0	75.5
	情報の扱い方に関する事項	64.5	58.5	59.0
	話すこと・聞くこと	73.7	79.8	75.9
	書くこと	85.8	70.7	71.7
	読むこと	66.8	62.8	62.5
観点別	知識・技能	79.0	72.0	74.4
	思考・判断・表現	75.2	69.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

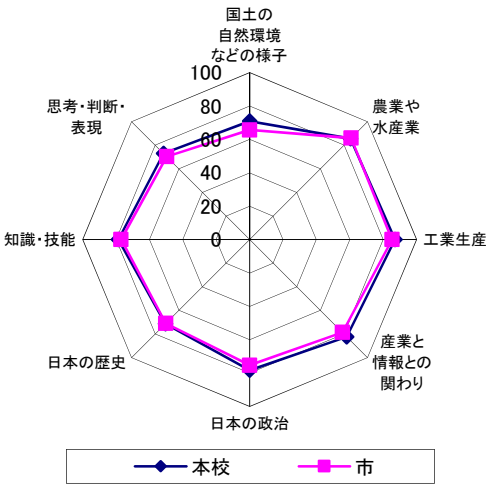
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○市の平均正答率を7.1ポイント上回っている。特に、漢字を読むことについては、約90%の正答率だった。	○漢字の読み書きについては、繰り返し復習させることでさらに定着を図るとともに、熟語や同音異字、敬語などの言葉の知識についても振り返る時間を意識的に設け、基礎力を伸ばしていきたい。
情報の扱い方に関する事項	○市の平均正答率を6ポイント上回っている。特に、情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単にまとめて書くことについては、市の平均正答率を6ポイント上回っている。	○引き続き、文章に含まれる情報を取り出して整理したりその関係を捉えたりして文章を正確に理解することや、情報を整理してその関係を分かりやすく明確にすることにより、思考力や表現力を育てていきたい。
話すこと・聞くこと	●市の平均正答率を6.1ポイント下回っている。特に、計画的に話し合い、考えをまとめるための司会者の工夫を捉えることについては、市の平均正答率を12.2ポイント下回っており、司会の役割や話し合いの進め方の工夫についての理解に課題が見られる。	○授業の中での話し合い活動を通して、司会の役割を理解させたり話し合いの流れを見通した話し合いの仕方や工夫を意識させたりして、話し合いのスキルの向上を図りたい。
書くこと	○市の平均正答率を15.1ポイント上回っている。特に、指定された長さで文章を書くことについては、市の平均正答率を23.1ポイント、賛成しない意見への反論を書くことについては、市の平均正答率を26ポイントと大きく上回っている。	○引き続き、様々な条件に対応して書く、自分の考えを明確にしながら書く活動を継続して行い、書く力を育てていきたい。
読むこと	○市の平均正答率を4ポイント上回っている。特に、文章の論の進め方を的確に捉えることについては、市の平均正答率を15.5ポイント上回っている。 ●物語の全体像を具体的に想像することについては、市の平均正答率を9.7ポイント下回った。	○引き続き、朝の読書の時間の確保や教材文と同じジャンルや構成の本を読むなど、物語や説明文を含めて多様な文章にふれる機会を設定していく。 ○物語の情景や登場人物の様子、心情を丁寧に読み、言語化する活動を通して、読む力を育てていきたい。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	71.0	65.7	67.0
	農業や水産業	85.5	86.1	77.5
	工業生産	87.1	85.4	76.7
	産業と情報との関わり	82.3	78.6	69.6
	日本の政治	78.2	75.2	65.8
	日本の歴史	71.4	71.1	69.1
観点別	知識・技能	78.6	77.0	72.8
	思考・判断・表現	73.0	70.3	64.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

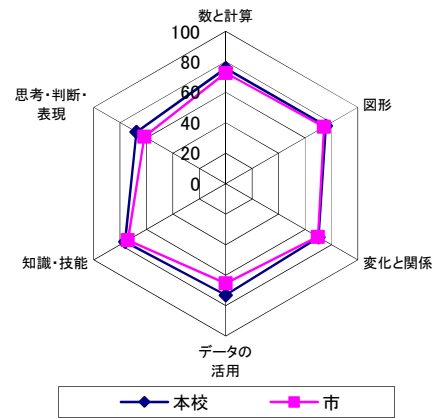
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○市の平均正答率を5.3ポイント上回っている。特に、「日本の気候の様子に着目して、雨温図から都市の位置を考え、判断している」の問題では、市の平均正答率を6.5ポイント上回っている。	・市を上回っているものの、市や本校の平均正答率が低いことから、授業の中で地図帳に触れる機会を増やし、国土の広がりや山脈、河川、季節による気温変化等への興味が高まるよう指導していく。
農業や水産業	●市の平均正答率を0.6ポイント下回っているものの、ほぼ同等といえる。しかし、「米づくりの作業の理解をもとに、資料を読み取っている」の問題では、平均正答率を8.4ポイント下回っている。	・米づくりの1年間の作業について、気候・土地の条件と関連付けて指導していく。
工業生産	○市の平均正答率を1.7ポイント上回っている。特に、「工業製品の種類について理解している」の問題では、93.5%と高い正答率であった。	・今後も身の回りの工業製品について、材質等にも関心をもたせながら、工業製品が日常生活を支えていることを意識して指導を行っていく。
産業と情報との関わり	○市の平均正答率を3.7ポイント上回っている。特に、「情報の正しい受け取り方について理解している」の問題では、93.5%と高い正答率であった。	・今後も情報化社会の仕組みや生活の中で情報がどのように生かされているか考え、様々な情報から正しい情報の選択と、上手な活用の仕方が大切であることを指導していく。
日本の政治	○市の平均正答率を3ポイント上回っている。特に、日本国憲法、三審制についての問題では、2.8ポイント、7.3ポイントと、市を上回る高い正答率であった。	・今後も政治に関する情報を、朝の会や帰りの会等で話題にし、日常生活においても政治に関心をもつよう指導していく。
日本の歴史	○市の平均正答率を0.3ポイント上回っているが、ほぼ同等といえる。しかし、「平清盛について理解している」の問題では、45.2%と低い正答率であった。	・これからもデジタル教科書やインターネット等を活用して課題解決に取り組み、さらに年表を活用しながら各時代の中心人物や出来事について整理するなど、指導の手立てを工夫していきたい。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.7	72.6	71.6
	図形	75.8	74.4	72.0
	変化と関係	70.3	69.8	62.6
	データの活用	73.1	65.5	59.1
観点別	知識・技能	76.3	74.1	68.9
	思考・判断・表現	67.7	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

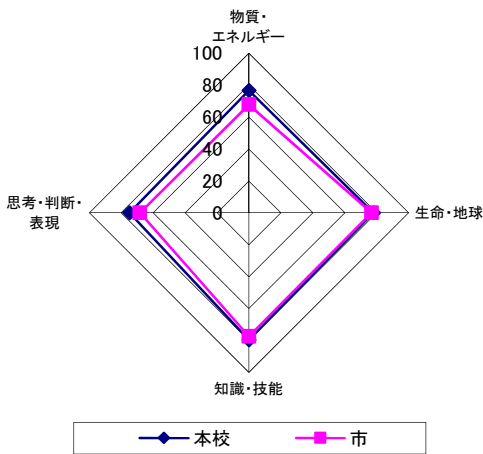
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市を3.1ポイント上回っている。特に、小数や分数の文章問題に合った式や図を選ぶことが市より7～10ポイント高くできていた。約分なしの分数の乗法は100%と全員正答であった。 ●分数の除法の約分がある問題が市の正答率より6.8ポイント低かった。計算はできるが約分を忘れてしまう傾向がある。	・授業や朝の学習などの時間で計算のつまづきを確認し、家庭学習でも復習に取り組み、学習内容の定着を図る。
図形	○平均正答率は、市を1.3ポイント上回っている。特に、正八角形の1つの内角の大きさを求める問題や点対称な図形の対応する辺を選ぶ問題は大きく市を上回っている。 ●合同な三角形の作図の方法の理解が市の平均正答率を9.3ポイント下回っていて、復習の必要がある。	・合同な三角形、拡大図や縮図の描き方など、個人差が大きいので、授業でも少し時間をかけ、一人一人に定着するよう支援していく。
変化と関係	○平均正答率は、市とほぼ同等であった。値に0がある分離量の平均を求める問題や50mの記録から速さを求める問題はよくできていた。 ●図から面積と人口の割合を求め、どこが一番混んでいるを考察する問題が市よりも3.8ポイント下回った。単位量あたりの大きさを求める問題の理解がまだ不十分である。	・単位量あたりの大きさで、何を基準に考えるか、出てきた答えが何を表しているかがわかっていないので、時間をとって復習していきたい。
データの活用	○平均正答率は、市を7.6ポイント上回っている。すべての問題が市の平均を上回っている。 ●市の平均正答率は上回っているが、もとにするの大きさが違うとき、割合の大小と比べる量の大小は一致しないことを具体的に説明することが54.8%と一番低かった。	・グラフから読み取ることはできるが、もとにする量が違う2つのものを比べることにまだ慣れていないので、類似問題を解くなどして復習していきたい。

宇都宮市立中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	76.6	67.8	64.1
	生命・地球	78.0	76.7	78.3
観点別	知識・技能	79.6	77.4	78.3
	思考・判断・表現	74.9	68.3	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○「ふりこのきまり」や「物のとけ方」については、市の平均を10ポイント以上上回り、良好な結果が得られている。 ○「電流のはたらき」「物の燃え方」についても、下記の2点以外は市の平均を上回っている。 ●平均正答率は、市より0.8ポイント下回った。「電流のはたらき」の電磁石を強くする方法の理解や、「物の燃え方」のものが燃えると、空気中の酸素の一部が使われることの理解が市より10ポイント以上下回っていた。	・「電流のはたらき」の電磁石について、強くする条件について再度確認していきたい。 ・「物の燃え方」については、「自然とともに生きる」の単元で、空気の循環を考える際に、もう一度考えさせたい。
生命・地球	○平均正答率は、市より1.6ポイント上回った。「動物のからだのつくりとはたらき」「植物のつくりとはたらき」については、すべて市の平均を上回り良好な結果が得られている。 ●「植物のつくりとはたらき」では、植物のからだのつくりについて、予想が正しかった場合に得られる結果について考えることが、市より21.7ポイント下回った。「生物とかんきょう」でも、ポリエチレンの袋に息を吹き込む理由や、実験を構想する問題の正答率が市より低くなっている。	・実験の目的を明確にし、結果と自然現象をつなげて考えられるよう支援していきたい。 ・なぜ、こんな条件にするのかをしっかりと考えてから実験に取り組ませたい。

宇都宮市立中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な学習内容と学習習慣の定着	・ねらいを明確にし、分かる授業を展開している。 ・担任と担任以外の教員による朝の学習支援を行ったり、定期的にステップアップテストを実施したりして、学習内容の定着を図っている。 ・全学年「家庭学習マイプラン」を活用し、毎日の家庭学習の内容や時間を記録させ、自主的に家庭学習に取り組む習慣をつけている。	・国語の知識・技能は79%と市の正答率より7ポイント高かったが、「つくる」の読み、尊敬語が市の正答率を下回った。 ・社会は78.6%で市より1.6ポイント高かったが、米作り、平清盛、ご恩と奉公についてが市の正答率を下回った。 ・算数は76.3%で市より2.2ポイント高いが、合同な三角形の作図、展開図から立体の辺の長さを読み取る、約分のある分数の計算が下回っている。 ・理科は79.6%で市より2.2ポイント高かったが、電磁石の強さ、物の燃え方、蒸散について下回った。 ・6年生の「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」の肯定割合は77.4%と市よりも8.4ポイント高かった。
主体的・対話的で深い学びを実現するための指導法の工夫	・対話的な学び合いのために学習展開を工夫している。 ・思考力・判断力・表現力を育成するために学習活動を工夫している。 ・学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「グループでの話し合いに自分から進んで参加していますか」の肯定割合は、多くの学年が80%を超え市の割合を上回っている。 ・「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」「ものごとをいろいろな視点や立場から考えている」についての肯定割合は3年以上で3学年が市の割合を上回っている。
個に応じた指導法・指導体制の工夫	・個に応じた習熟度別・少人数指導の充実を図っている。 ・児童の実態に応じた課題や教材を準備している。	・「学校の授業がどの程度分かりますか」の肯定割合は、4年生以上は100%と高い回答であった。 ・「学習に自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は、2,4,6年生は市よりも高く80%以上であった。
指導に生きる評価の工夫・改善	・「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で適切な評価し、活用する。 ・児童が自身の学習の成果を実感できる自己評価や相互評価を工夫する。	・6年生は、4教科とも観点別の「知識・理解」「思考・判断・表現」は市の正答率を上回った。 ・「先生は自分のよいところやがんばったことを認めてくれる」の肯定割合は4年生以上は100%であった。 ・「学習していろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい」の肯定割合は3年生以上は85%以上であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・今回の学力調査の結果から、自分の考えを書く力はついてきたが、いろいろな情報を関係付けて、簡単にまとめて書くことがまだ不十分であった。今後、各教科の授業の中で、どの情報と情報を関係付けるのか、そこから何が分かるのかを考えさせ、簡潔に自分の言葉でまとめることができるよう指導していきたい。また、昨年度まで課題であった「活用」問題は正答率が上がってきている。引き続き、思考を伴う課題に意図的に取り組ませていきたい。

・主体的・対話的で深い学びの実現や個に応じた指導法・指導体制の工夫においては、GIGAスクール構想におけるタブレットの活用方法を研究するとともに、児童一人一人が意欲的に学習に取り組み、友達の考えを認め合い、自分の考えを広げたり深めたりできるようにしていきたい。